

経営比較分析表（令和6年度決算）

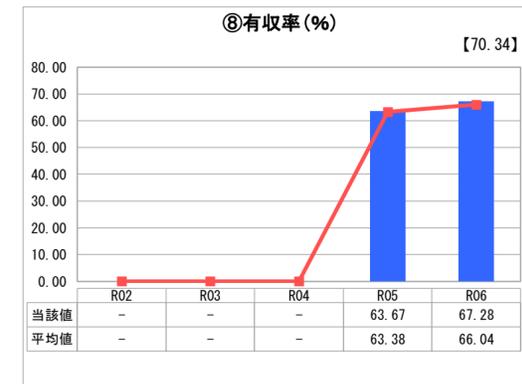
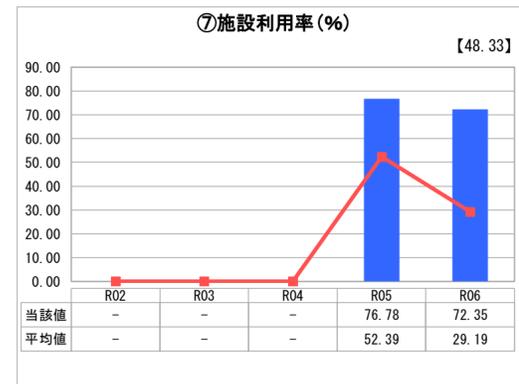
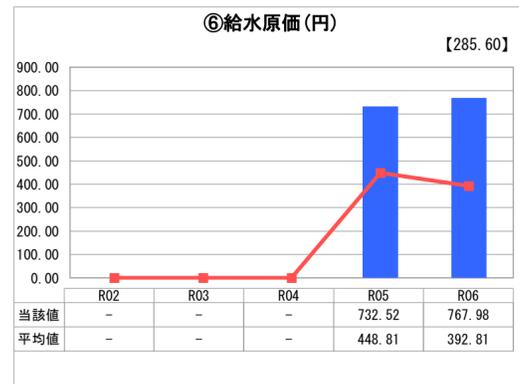
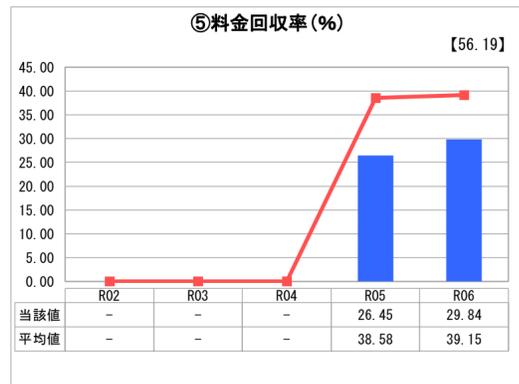
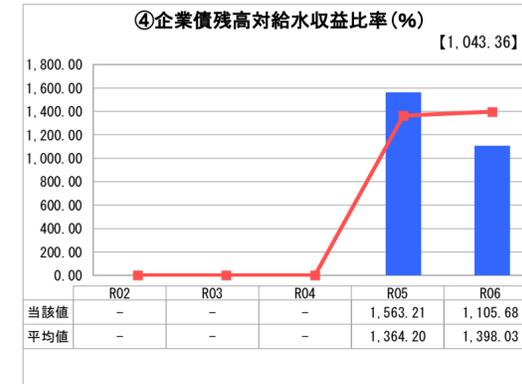
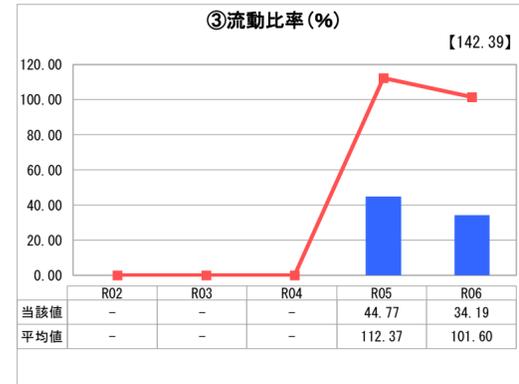
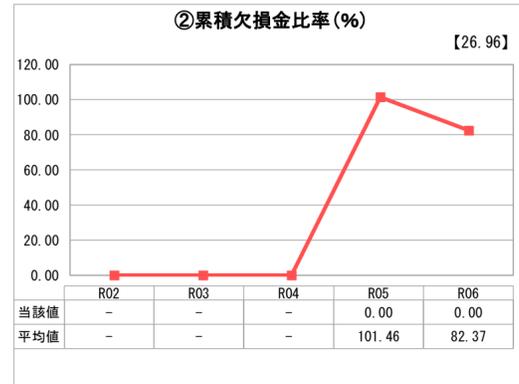
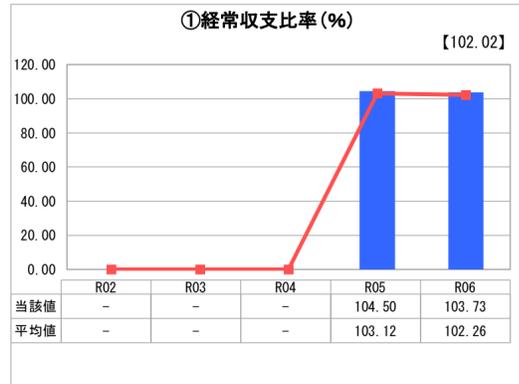
岐阜県 東白川村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	79.09	90.54	4,334	

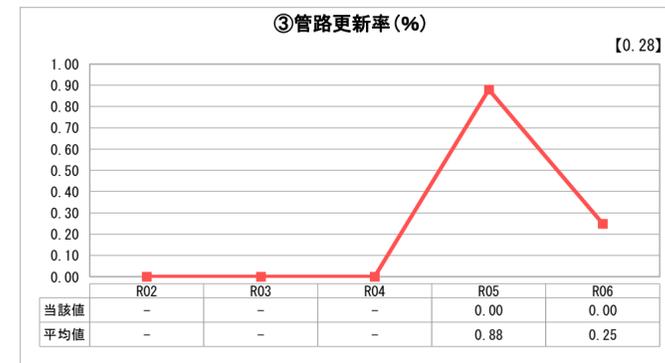
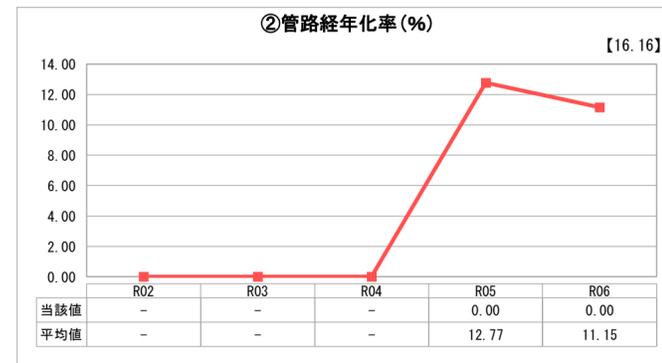
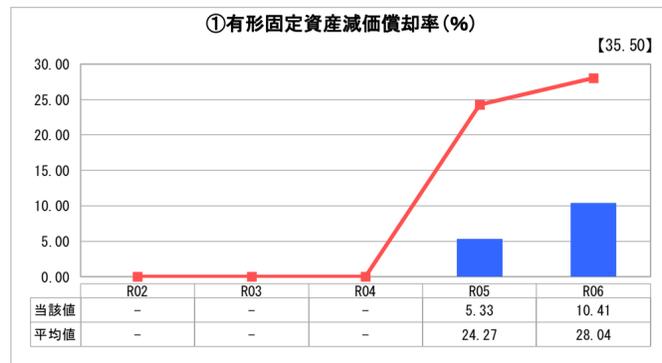
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,011	87.09	23.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,809	16.81	107.61

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和5年度より公営企業会計を適用し、前年度より類似団体と比較すると、施設利用率は高く、有収率は平均的。類似団体と同じように収入に結びついていないが、給水原価は平均に比べ高いものの料金回収率は非常に低く、料金収入では殆どの費用を賄っていない状態が慢性的に続いている。予算の約5割を占める地方債償還金が必要な要因の一つとして考えられる。

地方債償還金については、今後順次、建設当初の借入金償還が完了していく。継続して行っている老朽機器更新事業での新規の借入分を合わせても順次償還額は減少して行く見込み。

水道料金の改定は現状必要である。しかし、今後償還金の減少に伴い財政状況は改善していくと思われるが、将来的に行う管路更新事業等でまた多額の財源を有する必要があるため現段階で適正額を見込むのは難しい。また、地域特性として住居が山間部に点在しているため、水道施設のダウンサイジングの効果も限定的ではないと思われる。

今後財政状況等を考慮しつつ事業や規模の縮小等を行う必要がある。

2. 老朽化の状況について

水道施設の電気設備や機械設備（機器の更新）は、順次更新を行っているところであるが、布設から古いもので30年が経過する管路は、一部で鑄鉄管を使用しているものの、主要な管種は塩ビ管（VP管）であり、埋設地盤の影響や管の強度不足等により漏水が頻発する状況である。漏水が多いことも給水原価の高騰に関連しており、機器更新と管路更新の事業計画の進め方については、熟慮を要する。

現在漏水が多発する区間について耐震性のある管への置き換えを順次行っているが財源確保が厳しく計画通りに進んでいるとは言い難い。

全体総括

経営の安定化という視点では、繰入金や地方債への依存が高く、不安定な経営を余儀なくされている。令和5年度より水道会計の法適用化が行われており、少なくとも各指標が類似団体の平均値には近づけていくことが求められるため収支バランスの取れた財政運用を計画して行く必要がある。